

2025年11月5日

各位

会社名 ザインエレクトロニクス株式会社
代表者の役職名 代表取締役社長 南 洋 一 郎
(スタンダード・コード番号：6769)
問い合わせ先 取締役総務部長 山 本 武 男
電話番号 03-5217-6660

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2025年2月5日に公表した2025年12月期の業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2025年12月期通期連結業績予想数値の修正（2025年1月1日～2025年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 6,366	百万円 381	百万円 360	百万円 301	円 銭 28.27
今回発表予想 (B)	4,620	△290	△407	△279	△26.10
増減額 (B-A)	△1,746	△671	△768	△581	
増減率 (%)	△27.4	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2024年12月期)	4,614	28	264	339	31.82

2. 修正の理由

当社は2027年12月期を目標年次とする中期経営戦略「Innovate 100」を推進しております。半導体、AI/IoTソリューション等から成る事業ポートフォリオを活かしつつ、今後の経済社会においてAI活用ユースケースの適用加速に寄与する革新的なソリューションを提供し、経済社会の生産性向上に取り組み、目標年度の連結売上高100億円超の実現を目指します。

当連結会計年度においては、LSI、AIoT両事業とも下半期、特に第4四半期にかけて売上を大きく伸展させる計画でありましたが、両事業とも当初の期待通りの伸展が見込めず、通期見直しにおいて当初計画を下回る見込みとなりました。

LSI事業については、当社の主力分野の一つである事務機器市場向けの製品出荷が回復し、また北米市場向け等の出荷が堅調に推移した一方、アミューズメント機器市場向けについては、一部に改善の兆しが見えるものの事業環境の改善には至らず、顧客の在庫調整等の影響が継続し、本格的な回復は来期以降にずれ込む見込みとなり、また中国市場向けについても関税懸念の影響等により需要が増加せず、通期の見直しにつきましては当初計画を下回る見込みとなりました。

AIoT事業については、当第3四半期連結会計期間よりスマートメータ向け製品の本格量産出荷を開始し順調に出荷数量を伸ばし来期以降の大幅な売上増加が期待できる一方、当期に生じたドライブレコーダ向けおよび自動販売機決済端末向け等の用途における顧客需要の大幅な減少をカバーするまでとはならず、通期の見直しにつきましては当初計画を下回る見込みとなりました。

これらの結果、当社グループの売上高および売上総利益が当初計画を下回る見込みとなりました。

販売費及び一般管理費については、AI データセンター向け光半導体の製品開発等の研究開発活動を加速させるべく研究開発投資を当初見込みより増加して積極投資を行いつつもコスト削減を進めた結果、全体としては概ね当初計画通りの見込みとなりましたが、上記理由により営業損益については当初見込みより大幅に減少する見込みとなりました。なお、当社の AI データセンター向け光半導体の製品開発については、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）における令和 7 年度社会実装・海外展開志向型戦略的プログラムの活動として採択されており、研究開発費用の一部については翌期以降に助成金として交付を受ける予定です。

また、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益についても上記理由および前期末比で為替相場が円高に進行していること等により当初見込みより大幅に減少する見込みとなりました。

なお、期末配当予想につきましては 1 株当たり 15 円の従来予想からの修正はございません。

以上